

4—いきいきとした都市

5

# 観光・イベント

市内の観光地を訪れたり、イベントを楽しむ人が、最近ふえている。年間の観光客は昭和五一年以降、増加傾向にあり、五六年には一二八七万人に達した。

このような多数の観光客を引きつけるものは、独特なイメージをもつ横浜の魅力的な観光資源である、といつてよいだろう。たとえば、世界的な貿易港である「横浜港」、これに臨む「山下公園」・「港の見える丘公園」、そして異国情緒あふれる「中華街」・「外人墓地」などがあり、これらが一体となって横浜を代表する観光地を形成している。若い女性を中心に人気の高い「元町」、伝統的な日本庭園、建築美をもつ「三溪園」なども、重要な観光資源となっている。

## ■多様化するイベント

横浜開港を記念して繰り広げられる「港まつり」は、五月三日の「国際仮装行列」に始まり、「開港記念バザー」、そして七月二〇日の「国際花火大会」で幕を閉じるが、最近では六月上旬の「横浜どんたく」、七月下旬の「横浜新能」などの行事も加わってきた。秋には「国慶節」や「双十節」など中華街の祭りに加え、「ミナト横浜秋祭り」、「横浜マラソン」などもある。徐々にではあるが、イベントも広がりを見せている。

## ■多彩な振興策が必要

観光客に対するサービスとして、横浜駅などに観光案内所が、また主要駅や公園などに観光案内板が置かれている。外国人に対してはホームビジットの紹介が行われている。

観光客などのための宿泊施設の数は、五六年末現在四五六（八二六六室）となっている。近年、大規模ホテルがふえているものの、他の大都市と比べると横浜の宿泊施

設は少ない。飲食店、土産品店などの観光関連サービス業とともに、宿泊施設の充実が必要とされている。

横浜の観光を振興していく場合、これまでに力を入れなければならぬのは、新たな観光資源の開発である。また、個性と魅力ある都市につくりあげていくことも、横浜に多くの人を引きつけていくうえで重要である。

このため横浜市では、五五年に国際性と良質の文化の追求を基本理念とする観光基本構想を策定した。ウィークエンドのさまざまなイベントの開催、横浜の今昔のイメージづくりなどが盛り込まれている。



「横浜新能」も新たな行事として加わった